

地域人

vol. 22



「人と人がツナガル地域を目指して」

村武 まゆみ

(むらたけ まゆみ)

私が浜田市立国府公民館主事の仕事に就いてもうすぐ丸8年が経ちます。公民館の仕事をするようになってから、地域の人と人のつながりの大切さを知りました。現在は公民館活動を中心にみんなが暮らしやすい地域を目指して頑張っています。

はまだを明るく照らし隊

公民館で仕事を始めた年の10月に、当時島根県立大学1年生だった平岡都さんが殺害された悲しい事件が起こりました。まだ多くの方の記憶にも残っていると思いますが、事件後の浜田市民はみんなが不安の中で暮らしていました。島根県立大学生の中には怖くて実家に帰り、浜田に戻ってくるのに時間がかかる学生もいました。そんな話を聞く中で、何かできることはないだろうかと友人と一緒に考え、知人や知り合いの大学生に声をかけて集まり、今感じていることを話し合いました。それが「はまだを明るく照らし隊」の始まりでした。当時の浜田ではまだ珍しいワークショップ形式で意見を出し合い、市民が自分たちのまちについて話し合いました。そこで、私は一人ではできないけれど同じ思いを持った仲間が集まれば様々な意見が出て、想いを行動に移すことができるということを経験しました。

現在は「はまだを明るく照らし隊」に深く関わってはいませんが、仲間たちが想いを引き継いで、活動は継続されています。仲間がいれば大きな活動ができ、それはとても大切ですが、自分ひとりでもできることはあります。市民一人ひとりが今出来ることを考え、小さな行動でもいいので実行することが大切なことだと思います。それが集まれば大きな力になり、人と人が意外なところで繋がり、まちが変化していくと信じています。

障がい者にやさしいまちづくり

公民館での仕事の中では、地域の学校と地域住民を繋げる役割もあります。地域の方と子供たちが学校の中で触れ合うことで、子供たちや大人たちがお互いに高まり合うことができます。そんな中、養護学校とろう学校がある国府地域は障がい者にやさしいまちづくりを進めることになり、私は島根県の事業でもある「あいサポート運動」のメッセージャーもしています。障がいについての理解を広げる

取り組みです。この5年間で約50回の「あいサポート研修」を実施し、あいサポーターは1,000人を超えました。この運動をとおして多くの方との出会いがあります。みんな一人で生きていくことはできないので、助け合って生きていくことによる、地域での繋がり大切さを実感しています。

こくふ元気プロジェクト

現在は国府公民館において、住民が主体的に活動する「こくふ元気プロジェクト」に取り組んでいます。住民が集まり、国府の豊富な資源について想いや意見を出し合い話し合いを重ねて、想いを行動に移すことができる「人づくり」をしています。こうして話し合う必要性を感じることで、地域で活動する喜びを体感していただくことができれば、地域がもっと元気になると信じています。これから国府で楽しいことが始まりますので、どうぞ期待して待っていてください。

いつもワクワク・ドキドキ

今、公民館での仕事がとても楽しいです。もちろん大変なことや苦しいこともたくさんありますが、人と人が繋がる喜びでそれを越えることができます。これからも「ワクワク・ドキドキ」の仕事が続けていきたい。そして、それが多くの地域の笑顔に繋がるともっと嬉しいですね。

